

# 「イングランド・プレミアリーグにおける株式上場に関する研究」 - クラブ経営の視点からの分析

A study about the stock listing in England Premier League  
The analysis from the club management -

1K06B029

指導教員 主査 間野義之先生

伊藤航

副査 武藤泰明先生

## 【研究背景】

プレミアリーグを問わず、イングランドのサッカークラブは全て株式会社である。イングランドのサッカークラブでは、資金調達を目的として株式を公開することが一般的となっている。プレミアリーグは、アメリカのNFLと並んで世界で最も成功しているプロスポーツリーグと言われ、株式上場をしているプレミアリーグの各クラブは、買収の対象となっている。買収には、金融手法が用いられる。金融危機で金融自体のあり方が問われているいま、これからのプロスポーツクラブと金融の付き合い方が焦点となる。将来、金融技術がより高度化、複雑化されプロスポーツクラブもそれに無関係ではいられない。今回、株式上場を題材として、世界で最初に株式上場をし、それ以降のプロスポーツクラブの株式上場の火付け役となったプレミアリーグを事例として、スポーツと金融のあり方を考察する。

## 【研究目的】

本研究では、プレミアリーグの株式上場の歴史、現状を明らかにする。また、それらを元に、株式上場の課題を探り、これからのプレミアリーグの株式上場を考察する。

## 【研究方法】

文献、書籍、インターネットによる文献研究。歴史については、文献を用い、プレミアリーグ

については各クラブホームページ、プレミアリーグのホームページを用いた。現状、課題については先行研究や、プレミアリーグについての情報サイトを中心にホームページを参考にした。

## 【研究結果】

「ヒルズボロの悲劇」と呼ばれる、多くの死傷者を出した事故によって、スタジアムの安全性確保が社会的に重要事になった。スタジアムの改修の必要性から、資金調達のための株式上場を行った。また、証券市場は、1980年代後半のビックバンから、規制緩和が加速し株式上場をしやすい環境ができた。歴史的に、この2点が、プレミアリーグクラブの株式上場を後押しした。成績が株式に与える影響について、中位以下のクラブは、ビッククラブの引き抜きなどによって順位が安定しない。現状のUEFAの制度、リーグ戦の制度では順位はクラブ収入に影響する。クラブ経営が安定しないと、株式上場による資金調達が進まない。また、証券市場は自由市場であることから、買収されるリスクが常に伴う。レバレッジ・バイアウトなどの金融手法によって、クラブ側が損失を被るような買収方法もある。株式上場をしているクラブは、自己に不利な買収をされるリスクがある。

## 【考察】

クラブの成績が安定しないことは、株価が安定せず、思った通りの資金調達ができないこ

とである。なぜなら、サッカークラブにおいては、勝利こそが最大の株価推移要因であり、勝利につながるクラブの行為が株価を上昇されるからである。クラブの成績を安定させるには、現場と経営の分離と、クラブ強化方針の明確化が必要である。また、レバレッジ・バイアウトなどクラブに利益をもたらさない敵対的買収は拒むべきであり、そのための防衛手段を講じるためには、金融の知識が必要である。そのために金融の専門家が必要である。